



手から心へ 未来へつなぐお手玉

# おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN

NO.

# 37

2018年12月



お手玉遊び大会の熱戦

## 東京・おてだまが NPO法人に



東京・おてだま設立記念の会

## 新居浜高専奇術部と 浮島小が優勝

### お手玉遊び市民大会(新居浜)

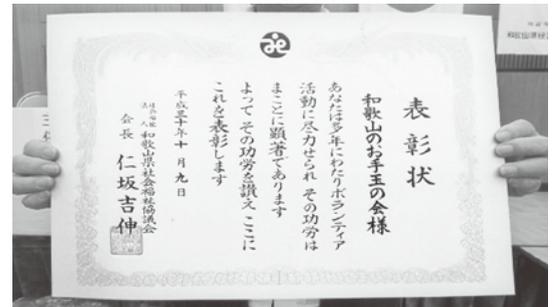


優勝した浮島小チーム



優勝した新居浜高専奇術部チーム

## 和歌山のお手玉の会が県社協賞



県社協から受賞した表彰状

**新しい支部紹介**  
「練馬お手玉の会」(東京都練馬区早宮)  
「草津・家の光おしゃみグループ」(滋賀県草津市追分)

**「チコちゃんに叱られる」**  
岩井正浩顧問が登場!  
「なんで応援は337拍子?」

- 脳科学者の森先生を招きお手玉の講習会
- 新居浜支部
- お手玉フェスティバルをイオンモールで
- 大野原支部
- 12回目の「お手玉で遊ぼう」に120人
- 神田支部
- 九州北部豪雨で統合した小学校へお手玉講習会は100人の出席者で盛り上がる
- 福岡支部
- 九州北部豪雨で統合した小学校へお手玉講習会は100人の出席者で盛り上がる

**北村義雄ヤツブ通信**  
日本のお手玉の会 北村義雄副会長「たまちゃん通信」に掲載

**「特別寄稿」 「お手玉と前頭前野」**  
脳科学者 森 昭雄 顧問

- 八王子支部
- うたかたネットセミナーでお手玉を紹介
- 拾い技ゆり技を披露

**中原顧問が韓国のテレビに**  
お手玉に集中し「いま」を見つめる  
熊本おしゃめの会(熊本)

**和歌山支部**  
長年の功労で和歌山県社協から表彰状が

**東京支部がNPO法人に**  
認定され祝賀会開く

**新居浜高専奇術部と浮島小が優勝**  
1,000人が参加して盛大に  
新居浜でお手玉遊び市民大会

# 新居浜高専奇術部と浮島小が優勝

## 1,000人が参加して盛大に

### 新居浜でお手玉遊び市民大会

「お手玉の里」新居浜市で、平成30年10月28日(日)、お手玉遊び市民大会が、あかがねミュージアムで開催されました。

この大会は、お手玉遊び市民大会実行委員会、新居浜市、新居浜市教育委員会が主催し、日本のお手玉の



会新居浜支部と愛媛新聞社の共催で行われました。

大会は、一般の部と小学生の部の団体戦競技を中心に、お手玉づくり教室、段位認定審査、保育園やダンスグループによるダンス、コーラスグループによる合唱、ジャグリングパフォーマンスなども披露されました。

#### 「お手玉しましよ」の合唱

また、茶道グループによる抹茶とお菓子の振る舞いもありました。お手玉づくり教室では、100人の方が挑戦しMYお手玉を作りました。競技に出場した選手を含め千人が参加して、楽しい一日を過ごしました。

大会は、新居浜市歌と、昨年誕生した日本のお手玉の会の宮中雲子会長作詩、東京・おてだまの小泉珠子理事作曲の『お手玉しましよ』を、新居浜少年少女OB・OG合唱団ハモルネアの合唱で幕を開けました。

開会式では、主催者の寺田政則新居浜市副市長のあいさつ、中村時広愛媛県知事のメッセージ(代読)があり、競技に移りました。

#### 接戦で応援にも熱が入る

競技大会は、一般の部の団体戦から始まり、愛媛と香川から参加した13チームが対戦しました。接戦の末に、優勝は新居浜高専(新居浜)、準優勝は神郷お手玉クラブ(同)、三位はたまたま(同)でした。(写真)

つづいて、小学生の部の団体戦が行われ、新居浜市内の19チームが参加。4つのコートに分かれ、決勝リーグが

### 大会の様子はロスで発行の英字の新聞でも紹介される



大会の様子は、アメリカのロサンゼルスで発行している、日本文化を英語で紹介する新聞「カルチュラルニュース」(2018年12月号)に紹介されました。

この新聞の発行人で編集長の東繁春さんは、日本のお手玉の会新居浜支部の顧問で、写真絵本『お手玉』(文溪堂)の英語版『OTEDAMA』の発行にご尽力いただきました。

「カルチュラルニュース」は、大会の様子を、次のように紹介しています。「新居浜市と日本のお手玉の会が主催して、お手玉のメッカ新居浜市で、2018年10月28日、お手玉遊び大会があり、1,000人が参加しました。

イベントでは、子どもの部と大人の部の団体戦が行われ、競技者は、友人、両親、祖父母などに囲まれていました。

## 東京支部がNPO法人に認定され祝賀会開く



活動報告をする小泉珠子理事



挨拶をする宮中雲子会長

東京お手玉の会は、平成9年に設立以来、小学校での指導や、高齢者施設への訪問のほか東日本大震災後は、被災地へ4回の慰問を実施しました。

最近では、東京オリンピック、パラリンピックの開催に向けて、心のこもったお手玉製作に取り組んでいます。

こうした活動の輪を、さらに広げるため、特定非営利活動法人の設立を目指して、支部の名称を「東京・おてだま」尾崎杏子会長に改め、1月に東京都に申請を行っていました。それが、7月に認定を受け、11月4日、祝賀会を開催しました。

祝賀会には、宮中雲子会長をはじめ、保坂展人世田谷区長、脳科学



お手玉の花を咲かせた活花



フィナーレは全員で「サザエさん」を踊る

者の森昭雄日本のお手玉の会顧問など100人が参加して行われました。

祝賀会では、小泉珠子同会理事の活動報告、小田原充宏日本のお手玉の会師範代の見事なお手玉演技が披露されました。

最後は、東京・おてだまのみなさんによる「サザエさん」のお手玉演舞で締めくくりました。

### 和歌山支部 和歌山のお手玉の会

#### 長年の功労で和歌山県社協から表彰状が

和歌山のお手玉の会(森勝代会長)は、長年にわたりボランティア活動に尽くした活動が認められ、和歌山県社会福祉協議会から、10月9日、表彰されました。

和歌山のお手玉の会は、設立から13年になりますが、支部独自の交流会を開くとともに、県立図書館でお手玉教室を、毎月つづけていて、絵本の読み聞かせも行っています。

さらに、和歌山市内の栄谷保育所でのお手玉教室を行い、その中で、絵本の読み聞かせを続けています。また、老人福祉施設へも要請に応じて訪問し、地域のイベントにも参加するなど、地域貢献をしています。

支部独自の事業としては、『とどけよう お手玉のぬくもり』を合言葉に、「お手玉遊び交流会」を、毎年開催しています。

交流会には、京都、奈良、神戸、長田、尼崎、大阪など近畿ブロックの各支部を始め、四国、関東、長野県松本など遠隔地からも、お手玉ファンが参加して、お手玉遊びによる交流を深めています。

# 中原顧問が韓国のテレビに

## お手玉に集中し「いま」を見つめる

熊本おじゃめの会(熊本)

日本のお手玉の会の顧問で、ヘルス・アートクリニックくまもと院長の中原和彦医学博士が、このほど韓国テレビ放送MBCのドキュメンタリー番組「伝承遊び」に登場しました。

この番組は、昨年11月、日本で収録されたもので、本番では、モンゴル、中国、日本、韓国、カザフスタン、タイなどの「むかし遊び」が紹介されました。

お手玉について、中原顧問は、「お手玉に集中して『いま』を見つめる遊びで、憂鬱な考えがなくなり、心が楽



しくなります」と話しています。

また、熊本おじゃめの会(荒木千鶴子会長)のみなさんは、お年寄りと一緒に楽しむ遊び方を紹介し、岡田加奈子さんは、ヨーヨーお手玉ダンスを披露しました。

お年寄りは、お手玉について、これが最高の健康法です」とか、「お手玉をして、つらい時期を乗り越えられました」と話していました。

(熊本おじゃめの会・中原俊彦)

# 八王子支部

八王子お手玉の会

## うたかたネットセミナーでお手玉を紹介

八王子お手玉の会(鈴木幸子会長)は、7月1日(日)、東京の武蔵野プレイスで開催された「うたかたネットセミナー in 東京むさしの」に参加しました。

このセミナーは、立命館大学の鶴野祐介教授が代表を務める「うたかたのネットワーク(うたかたネットワーク)」が主催したものです。

八王子お手玉の会は、このセミナーで、日ごろの活動報告と、お手玉



遊びを披露しました。

これは、先に、八王子お手玉の会が発行した、DVD「ふるさと八王子のお手玉遊び」の編集・制作を担当してくださった、民族音楽研究家の尾崎昭夫先生の仲介によるものです。

セミナーは、鶴野先生の講話で始まり、教授は、小さな巾着袋からお手玉、あやとり、小石を取り出し、小石で「石なごり」を披露しました。

鶴野教授は、藤本浩之輔(元京都大学教授(元日本のお手玉の会顧問)の著書「遊び文化の探求」を編集され、お手玉遊びにも造詣の深い方で、この3点セットは、いつも持ち歩いておられるそうです。

講話は、「昔話の人間学とは」(浦島太郎)を手がかりとして「のタイトルでした。昔話をさまざまな角度」昔話の人間学」の立ち位置、昔話のあらすじ(モチーフ構成)、歴史的变化の考察指標、考察の結果などを話されました。

昔話の語り手の視点がどこにあるか、朝鮮、中国、アイルランド...などにあり、お手玉遊びも、道具が違うものの、世界各地に類似のあそびがあるなど、興味深い内容でした。

## 拾い技ゆり技を披露

講話の後、八王子お手玉の会の鈴木会長が、活動報告とお手玉遊びを披露しました。すすめ方は、「見えて、聴いて、やってもっと解かる」で行いま

した。

まず、ふるさと八王子の「おさらい」拾い技、ゆり技を紹介しました。技を見てもらっている間も、あらかじめ配っておいたお手玉が、宙を舞っていました。

会場は、「早くお手玉をしてみたい」との雰囲気になっていました。「めだかの学校」の歌にお手玉の基本を入れ込んだ遊びが、好評のようでした。

鈴木会長は、このたびの体験を、次

のように話していました。

「参加者は、若い人が多く、様々な場で活動しておられるので、手の機能、お手玉をつかむ指の動きなどの話を交え、1個々2個のお手玉を工夫して活用できるように心がけました。1時間弱の時間で、伝えられなかったことがたくさんあります。しかし、歓声と笑いに包まれた、すばらしいご縁をいただくことができました。」

# 「特別寄稿・新連載」 「お手玉と前頭前野」

脳科学者 森 昭雄 顧問

## 31年1月から1年間の予定



## お手玉は脳にとって 良いのか否か!?

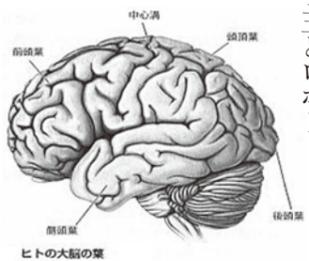
脳科学者で、日本のお手玉の会の顧問でもある森昭雄先生が、来年1月から「お手玉と前頭前野」『お手玉が脳にとって良いのか否か』のタイトルで、ご執筆くださることになりました。

これは、書下ろしの作品で、「特別寄稿・新連載」として、日本のお手玉の会のホームページに、毎月、掲載することとなりました。

お手玉の効用、お手玉と脳の働きとの関係などについての理解を

深めるとともに、ご自身のお手玉の取り組みにお役立てください。期間は、1年間です。

- 1 おもな項目は、次のとおりです。
- 2 はじめに「お手玉と脳の働き」
- 3 前頭前野への入力
- 4 前頭前野と学習
- 5 脳に良い食べ物
- 6 脳を悪化させる食べ物
- 7 お手玉はなぜ前頭前野に良いのか
- 8 認知症の予防対策
- 9 脳のネットワークと知恵
- 10 生涯努力
- 11 脳と環境
- 12 美と脳
- 13 お手玉とロボット



ヒトの脳の葉

## 北村義雄ヤップ通信

日本のお手玉の会 北村義雄副会長  
「たまちゃん通信」に掲載



在マイクロネシア連邦日本国大使館 堀江良一大使(右)と北村副会長

日本のお手玉の会の北村義雄副会長が、JICA(国際協力機構)のシニア海外ボランティアの一員として、30年3月から2年間、マイクロネシアに向き、活動されます。

その間の生活や活動の様子を、日本のお手玉の会に送っていただくことにしました。それを、日本のお手玉の会のホームページに、「たまちゃん通信」として掲載させて



# 各支部で多彩な行事を展開

## 札幌支部

札幌お手玉同好会

### 講習会は100人の出席者で盛り上がる

札幌お手玉同好会（西村寛幸会長）は、6月24日（日）、お手玉講習会を、白石区民センターで開催しました。

内容は、①お手玉製作指導、②お手玉技術指導、③お手玉遊び紹介、④参加者全員によるお手玉遊び、としました。

企画の段階では、「初めてのことで、50人くらいの参加があれば成功だね」と話していましたが、ところが、若い人から50、60、70代、そして90代の人まで100人の参加がありました。

これは、会員の葛道子さんが、参加募集の新聞掲載、区役所、地下鉄などの掲示板に案内を出したことが、功を奏したのでしよう。

お手玉の製作は、針や糸、布、ペレットなど必要なものすべて用意して、身軽に参加できるようにしました。

技術披露は、お手玉5段の藤井郁子さんが、見事な技を披露しました。

お手玉遊び紹介は、90歳の今井幸子名誉顧問を中心に、ソーラン音頭を



まず、幼児の部のトイレットペーパーでお手玉を運ぶ親子ゲームからスタートしましたが、家族の応援があつて盛り上がりました。賞品はヨーヨーお手玉でした。

次は、小学生の個人戦両手2個ゆりでなかなかの接戦でした。つづいては、お手玉のかご入れゲームで、集中力、目視力の戦いとなりました。がんばったみなさんに、合田会長手作りのCDゴマがプレゼントされました。大人の部は、両手3個ゆり、片手2個ゆり、両手2個ゆりを行いました。

最大の呼び物のアトラクションは、京・村人お手玉フレンドのみなさんが、南山城村の四季を紹介した童謡

合唱しながら、お手玉遊びをしました。

全員でのお手玉遊びは、葛道子さん、向井富美子さんの指導で、「あんながたどこさ」を歌いながら、お手玉を回しました。

参加したみなさんの一所懸命な姿と笑顔があふれ、会場全体が盛り上がりました。（写真）

会場のステージと入口には、二ツ森英子さんが製作した刺繍の横断幕や看板が掲げられ、会場に花を添えました。

こうして、会員全員で取り組んだ講習会は、大成功を収めました。講習会後に、10人の方が入会されました。



に乗せて、ヨーヨーお手玉を使った演舞を披露し、会場からは大きな拍手が送られました。

次に、新居浜高専奇術部が軽快な音楽に乗せてポール、リングの演技を披露し、観客を魅了しました。

最後は、会場の全員で「サザエさん」の演舞を行いました。会場は、満足の笑顔がいっぱいになりました。

## 神田支部

神田お手玉の会

### 脳科学者の森先生を招きお手玉の講習会

神田お手玉の会（石川喜助会長）は、4月22日（日）、神田公園区民館で、脳科学者の森昭雄先生（日本のお手玉の会顧問）をお招きして、お手玉遊び講座を開き30余人が参加しました。

森先生は、パワーポイントを操作しながら、「どうしてお手玉が脳によいのか？」を、わかりやすく話してくださいました。

人の意思決定には、前頭前野が関与しています。お手玉は、手に当たることで、高さや位置を、そのつど前頭前野の細胞が知らせます。

そして、その信号は、運動パターンに関与する運動補足野にいきます。

さらに、その信号は、手足の筋肉に、関係する運動野の出力細胞に行き、脊髄を介して、手足が動きます。こうしたお話を、脳の図を示しな

## 福岡支部

福岡お手玉の会

### 九州北部豪雨で統合した小学校へお手玉

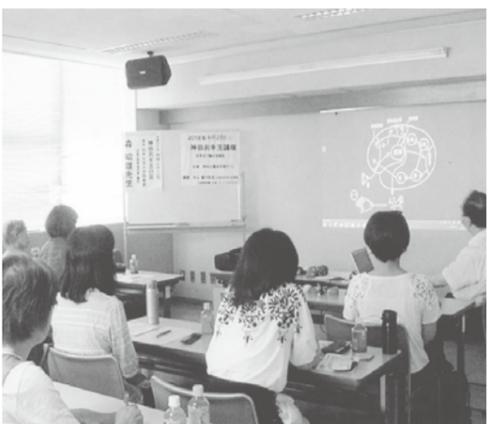
平成29年7月、福岡県朝倉市は、「九州北部豪雨」で、大きな被害を受け、朝倉市杷木地域にある小学校も被害に遭い、「4つの小学校が1つに統合され、今年度（30年4月）から『杷木小学校』として開校する」というニュースが流れました。

このニュースを知った福岡支部の会員から、「新しい杷木小学校へ、お手玉を贈りませんか」という提案がありました。4つの小学校が統合され、知らない友達との新学期が始まります。声をあげた仲間への願いは、「私の娘は、夫の仕事の関係で何回も転校し、友達を作るのが難しかった。お手玉で、子ども達が仲良くなってくれたら……」というものでした。

この会員の想いに、全会員が賛同。即！お手玉を作り始めました。年を越しながら、新学期へ向けて、家で縫ったり、例会で仕上げたりして、やつと、550個ができました。（写真）

学校を訪問すると、校長先生が、快く迎えてくださり、私たちの想いを、受け入れていただきました。

6月19日、木の香漂う校舎で、1、2年生72人と、校長先生、主任の先生（お手玉が上手でした）、担任の先生方も参加され、楽しいお手玉遊びと



から、話されました。

その後、日本のお手玉の会の中山順子理事が、お手玉の遊び方を紹介しました。

## 新居浜支部

### お手玉フェスティバルをイオンモールで

イオンモール新居浜店の創業17年の周年事業として、お手玉フェスティバルが、11月11日（日）、同店で開催されました。この事業は、イオンモールが主催し、新居浜市、新居浜市教育委員会、日本のお手玉の会新居浜支部の後援で行われました。

めぐみ保育園の園児のみなさんが、楽しい音楽にのせた、お手玉の演技で幕をあげました。



なりました。

子ども達と、2個ゆりやヨーヨーお手玉、ゲーム、「サザエさん」のお手玉ダンスなどを楽しみました。

子ども達の笑顔に包まれた、交流の場となりました。

（福岡お手玉の会・原妙子会長）

## 大野原支部

大野原お手玉の会

### 12回目の「お手玉で遊ぼう」に120人

香川県観音寺市の大野原お手玉クラブ（合田智子会長）は、6月24日（日）、大野原図書館の音楽室で、「12回お手玉で遊ぼう」を開催しました。

大会には、地元の人たちをはじめ、日本のお手玉の会の京・村人お手玉フレンド（京都府）、かわうそお手玉の会（高知県）、高松お手玉の会（香川

新居浜高専奇術部のみなさんが、リング、ポール、お手玉など自慢の技を披露しました。その見事な演技に、お客様は歓声を上げていました。（写真）

高専のみなさんによる、お手玉の指導も行われ、お客様は、笑顔でお手玉遊びに挑戦しました。

つづいて、日本のお手玉の会が全国に広めている、脳と心と体の健康づくりに役立つ「2個のお手玉」でできる、「お手玉体操」を紹介しました。

この体操は、高齢者には老化防止、認知症の予防、腰痛の予防・改善、健康寿命を延ばすことに役立つ、子どもさんには、姿勢をよくし、忘れ物を少なくする効果を紹介しました。

そのあと、お客様には、お手玉を2個ずつ持つてもらい、お手玉つまみ、利き手からと逆手からの両手2個ゆりなどのお手玉体操を体験してもらいました。

# 「チコちゃんに叱られる」

## 岩井正浩顧問が登場！

### 『なんで応援は337拍子？』

NHKで放送中の番組「チコちゃんに叱られる」で、「なんで応援は337拍子なの？」が取り上げられました。(写真)

そこで、専門家に聞いてみようとして、「この方なら」と訪ねて行った先が、「民族音楽の研究一筋50年」の神戸大学名誉教授で、日本民族学会会長の岩井正浩博士のところでした。

岩井先生は、日本のお手玉の会の顧問でもあります。

岩井顧問は、「337拍子は、明治大学の天才のひらめきです」と答え



て、その事情を説明されました。(写真)  
「天才というのは、明治大学初代応援団長の相馬基さんです。相馬さんは、応援の際「勝ったほうがいい！勝ったほうがいい！」と叫びながら応援したのが始まりです。そのとき、次の行動に移る際には、どうしても1拍間が必要だったので、337拍子になったのです」と答えていました。

そして最後、岩井顧問は、「じゃあ次は、チコちゃんの十八番を、337拍子でうたおうか」と言っていました。(写真は、NHKテレビから)

## 新しい支部紹介

### 「練馬お手玉の会」

— 東京都練馬区早宮 —

長年、東京お手玉の会（現東京・おてだま）に所属して、支部運営のノウハウ、お手玉遊びの技術、お手玉教室の進め方を習得し、活動をしてきた奥野ふみさんが会長に就任して、支部を立ち上げました。

これから、東京・おてだまをはじめ近隣の先輩支部と連絡を密にして、多摩地区で、お手玉人口を増やすため、地域の子どもたちや、高齢者を対象としたお手玉教室を通じて、お手玉の普及に努力していきます。よろしく願います。

(奥野ふみ会長)



### 「草津・家の光おじゃみグループ」

— 滋賀県草津市追分 —

JAが発行する雑誌「家の光」のお手玉の記事や、JA滋賀が開催したお手玉講習会に参加したり、日本のお手玉の会の「神戸お手玉の会」を訪ねるなどしてきました。

そうした活動を通じて、メンバー間で支部結成の機運が高まり、このたびその気が熟して、支部結成の運びとなりました。

支部結成にあたり、名称にもこだわり、会員の総意でこの名称となりました。よろしく願います。

(青木美子会長)



【発行・編集】

## 日本のお手玉の会

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号 銅夢にいほま内

TEL : 0897-32-0302 FAX : 0897-32-0311

URL: <http://www.otedama.jp>

E-mail: [honbu@otedama.jp](mailto:honbu@otedama.jp)